

(体育科)

仲間とともにできる喜びや学ぶ楽しさを味わい、進んで運動する子どもを育てる

－ 運動の生活化を目指して －

大阪市立日吉小学校 研究部

1. はじめに

一昨年度、児童にとったアンケートでは、学校で休み時間に遊んだり、体を動かしたりしていると感じる割合は多いが、休日になると遊んだり体を動かしたりする割合が少なくなっていた。また、体育が好き（得意）な児童と嫌い（苦手）な児童との差があり、スポーツクラブに入っているかどうかで運動能力や運動への意欲の差が大きい傾向があった。そこで、昨年度より、上記の研究主題を設定し、研究を進めてきた。

今年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査の本校の結果と全国の結果を比較すると、男女とも長座体前屈、20mシャトルラン、50m走で全国平均を上回るとともに、女子では握力も上回っており、1年間の取り組みの成果の一端が表れてきたと考える。しかし、男女とも立ち幅跳び、ソフトボール投げで全国平均との差が大きい。また、休み時間に遊んだり、体を動かしたりしている児童も限られている。

そこで、今年度も昨年度同様の研究主題のもと、研究を推進してきた。

2. 研究の内容

(1) 研究の視点

- ①「学力（技能、態度、思考・判断）」（評価規準）を身に付けさせるための指導法の工夫…場の設定、教材開発（新しいゲームや練習の場）、教具の工夫（学習カード、掲示物）など
- ②運動の生活化につながる取り組み…休み時間や家でもできる運動の例示など

3. 授業の実践例

(1) ストーリー性をもたせる

1年の走の運動遊びでは、「ひよシーレスキュー」と題して、海の生き物を助けるレスキュー隊として活動させた。リングバトンを魚が大好きなドーナツ、障害物を助ける力がたまるアイテムにするなどストーリー性をもたせた。

(2) 休み時間にも体育館を開放する

2年ボール蹴りゲーム「するっとサッカー」では、20分休みに体育館を開放し、練習する時間を設けた。

(3) 準備運動に本時の主運動につながる動きを取り入れる

3年マット運動「マット運動で忍者修行に挑戦しよう！」では、準備運動に足のふり上げ、ゆりかごからの玉入れを取り入れた。

(4) チームの中に個々の動きを意識させる

4年ゴール型ゲーム「ポートボールを基にした易しいゲーム」では、パスをしたら走るという練習やパスがもらえる所に素早く動く練習を行った。

(5) 手作りの用具を使う

5年リレー「はやく はやく つなげ！」では、ラップの芯にチームカラーのビニールテープを巻いてバトンを作り、そこにチーム全員が目標を書き込んだ。

(6) iPad を活用する

6 年陸上運動「走り高跳び」では、手本の跳躍と比べるために、自分たちの跳躍を撮影し、いつでも再生できるようにした。また、客観的に捉えることができるよう、映像を振り返る時間を設けた。

(7) 基本的な動きを身に付ける手立てを工夫する

なかよし学級では、椅子に座った状態から、後ろの壁にあるマジックテープで貼りつけたボールを目で追いながら取り、前に置いてある箱に入れる動きを繰り返し行うことで、上投げを身に付けさせた。

4. 授業以外の取り組み

(1) 新しい遊具を設置する

ストラックアウト、キックターゲット、ジャンプタッチを設置し、休み時間に、自由に遊ぶことができるようにし、投げる、蹴る、跳ぶ機会を増やした。

(2) 「日吉っ子アスレチックカード」を作成し、配布する

鉄棒やうんてい、登り棒など、既存の遊具を活用して運動するために、それぞれの遊具について、初級、中級、上級の 3 段階を設け、個々にめあてをもたせた。

(3) 「日吉たいそう（日吉ストレッチ体操）」を行う

柔軟性の向上を図るとともに、みんなで体操する楽しさを味わわせ、学校以外の場合でも進んで実践しようとする態度を育てるため、毎朝実施した。

5. 成果と課題

(1) 成果

- 児童の実態や評価規準に基づき、できる喜びや学ぶ楽しさを味わわせることができるように授業を行った。その結果、児童は、どうすれば技能が高まるのか、相手チームに勝つことができるのかを考え、めあてをもって取り組むようになった。そして、体育の授業が好きになり、積極的に取り組むようになった。また、休み時間や放課後にも練習する児童が増えた。
- ストラックアウトやキックターゲットを設置することで、小さいボールを投げたい、ボールを蹴りたいという児童の欲求を満たすことができた。また、遊ぶ時間や遊び方を決め、運動委員会に準備や片付けを担当させたことで、児童の主体性が育った。
- 「日吉っ子アスレチックカード」を作成したり、全学年共通の鉄棒カードを配布したりすることで、そのカードを参考にして、竹馬や登り棒、鉄棒などを使って遊ぶ児童が増え、自分の目標に向けて進んで取り組む姿が見られた。

(2) 課題

- 今後も年間指導計画に従って学習を進め、低中高学年それぞれで必要とする、運動に関する学力を身に付けさせていく。
- 児童の運動への意欲を持続させたり高めたりするために、体育科の授業の充実はもちろん、カードや遊具をさらに活用できるよう、工夫を重ねる。